

問題 1 たろうさんたちは、開校記念式典で川崎市歌を歌うことになり、そのことについて話をしています。下の会話文を読んで、あとの(1)～(6)の各問いに答えましょう。

たろうさん：川崎市歌というのはどんな歌なのかな。

はなこさん：川崎市が生まれて10周年の記念につくられた歌なんだって。去年は市制90周年ということだったから、かなり昔につくられた歌みたいなの。

たろうさん：そんなに昔の曲なんだね。歌い始めてから終わるまでに、どれくらいの時間がかかるのだろう。実際に歌って見ないとわからないのかな。

はなこさん：実際に歌わなくても、大体の時間の計算をすることはできるわよ。ヒントは渡された楽譜の中にすべてあるの。譜面に書かれた記号などから、式に表すことができるわよ。

たろうさん：どれを使い、どのように計算すればよいのかな。

はなこさん：一緒に川崎市歌の楽譜【資料1】を見てみましょう。①この楽譜から歌う時間を計算するのに必要な情報を抜き出していくと、 $4 \times$ (あ) $\times 3$ (い) 104 という式に表すことができるよ。この歌は約 (う) 分で歌えることがわかるわ。

たろうさん：すべて、この楽譜に書かれた情報から読み取ることができる、ということだね。

【資料1】川崎市歌の楽譜

川崎市歌

作詞 小林俊三
作曲 高階哲夫

♩ = 104
mf

みよひんがしによするあけしおふじ
とうかいどのおもかげいずこさゆ
おおふねつなぐふとうのかげはたい

5

のすがたをますみにあ—お—ぎかがやくく
うにのぶるだいとのおつ—ぼ—さたからかに
へいようにつづくなみ—の—ほあせとちか

10

もをいろどる—たまがわきぼうみつ—るあさ
うつぶんかの—みやくはくかがくにた—つえい
らにせかいの—しげんをあつめきず—くいし

14

ff

かせいまぞ—あけゆくわがかわさきし
こうきおい—つとめてわかきいのちを
ずえいまぞ—かがやくわがかわさきし

【原調は二長調】

翌日

たろうさん：家に帰ってから川崎市歌について調べてみたら、ぼくたちが歌ったものは歌詞が大き
く2回変わったあとのものだったんだよ。

はなこさん：2回も変わっていたのね。どのような変化があったのかしら。

たろうさん：川崎市歌の変化の様子を【資料2】にまとめてみたんだ。一緒に見てみよう。

【資料2】川崎市歌の変化の様子

昭和9年	昭和44年	平成16年
川崎市歌（1934） 1. 見よ東に寄する暁潮 富士の姿を真澄に仰ぎ 赫く雲を彩る多摩川 響き渡るサイレン 今ぞ明け行く我が川崎市 2. 東海道の俤いずこ 左右に展ぶる大都の翼 高らかに打つ文化の脈搏 化学に樹つ栄光 勢へ努めて若き生命を 3. 巨船繋ぐ埠頭の影は 太平洋に続く波の穂 黒く沸き立つ煙の焰は 空に記す日本 翳せ我等が強き理想を 4. 大師に消えぬ御法の燈火 あがめて興る工業都市は 汗と力に世界の資源を 集め築く基礎 今ぞ輝く大川崎市	川崎市歌（1969） 1. 見よ東に寄する暁潮 富士の姿を真澄に仰ぎ 赫く雲を彩る多摩川 響き渡るサイレン 今ぞ明け行く我が川崎市 2. 東海道の俤いずこ 左右に展ぶる大都の翼 高らかに打つ文化の脈搏 化学に樹つ栄光 勢へ努めて若き生命を 3. 巨船繋ぐ埠頭の影は 太平洋に続く波の穂 汗と力に世界の資源を 集め築く基礎 今ぞ輝く大川崎市	川崎市歌（2004） 1. 見よ東に寄する暁潮 富士の姿を真澄に仰ぎ かがやく雲をいろどる多摩川 希望満つる朝風 今ぞ明けゆくわが川崎市 2. 東海道のおもかげいずこ 左右に展ぶる大都の翼 高らかに打つ文化の脈はく 科学に樹つ栄光 勢い努めて若き生命を 3. 巨船つなぐふ頭の影は 太平洋に続く波の穂 汗と力に世界の資源を 集め築く基礎 今ぞ輝くわが川崎市

はなこさん：昭和9年と昭和44年の市歌を見比べてみると、4番までであった歌詞が3番までにな
っているわね。

たろうさん：確かに4番はなくなっているけど、昭和44年の3番の歌詞は、昭和9年の3番の歌
い出しから始まって、4番の“今ぞ輝く大川崎市”で終わっているよ。

はなこさん：本当ね。不思議だわ。

たろうさん：わかった。②昭和9年の歌の“黒く沸き立つ煙の焰は”から“あがめて興る工業都
市は”までの部分がカットされているんだ。

はなこさん：なるほど。そうして残った部分をつなげたものが、昭和44年の3番になっているの
ね。でも、どうしてその部分をカットしたのかしら。

たろうさん：その理由を考えるために、川崎市の年表【資料3】も用意してみたんだ。なくなった
部分についてのヒントがあるかもしれないと思ってね。

はなこさん：この出来事のなかに、川崎市歌が変化した理由があるのかな。

たろうさん：川崎市歌が変化したころの時代や、そのあとの社会の動きの中に、きっと答えがある
んじゃないかな。

はなこさん：もともとの歌詞が時代に合わなくなった、ということね。具体的にはどのような理由
で時代に合わないと考えられたのかしら。

たろうさん：歌詞が変わった昭和44年ごろの川崎市は、どんな様子だったのかな。

〔資料3〕川崎市の年表

年	主なできごと
1955年	市議会に公害を防止する対策委員会ができた。
1956年	自動粉じん捕集器とばいじん測定器を各保健所に取り付けた。
1960年	市に公害を防ぐ条例ができた。
1962年	このころから臨海工業地域のばい煙量が急激に増えてきた。
1963年	国がばい煙規制地域に指定した。
1966年	ばい煙監視用TVカメラが市役所に取り付けられた。
1967年	国が公害対策基本法をつくった。
1968年	大気汚染集中監視装置を市役所本庁舎に設置した。
1970年	光化学スモッグの被害が初めてでた。 「公害病認定制度」ができた。 公害対策についての条例ができた。 39の工場が大気のをれを防止する協定工場となった。
1971年	市に「公害局」ができた。 国が「環境庁」をつくった。 空気ののをれを知らせる電光掲示板が市役所前にできた。 「箱根グリーンスクール」が初めて行われた。 公害の被害を受けている学校に洗眼器が配られた。 公害病の小学生が死亡した。
1972年	幸区も公害病認定地域になった。 公害病患者が1000人をこした。 市が全国一厳しい公害を防ぐ条例（公害防止条例）をつくった。 「川崎市公害監視センター」ができた。
1973年	幸区（日吉地区を除く）でもグリーンスクールが始められた。 「川崎市公害研究所」をたてた。 市が「自然環境保全条例（みどりの憲法）」をつくった。
1974年	「川崎市公害健康被害補償条例」ができた。
1976年	公害病患者が3000人をこえた。
1977年	「川崎市環境影響評価に関する条例」をつくった。
1979年	コンテナ式移動測定所をつくった。
1986年	「公害局」から「環境保全局公害部」となった。
1989年	小学校5年生に自然教室がはじまった。

（『かわさき 2015』より作成）

たろうさん：川崎市歌の昭和 44 年から平成 16 年の変化を見ると、歌詞の内容自体に変化が見られるね。

はなこさん：難しい漢字もひらがなに換えられているわよ。

たろうさん：例えばどこが当てはまるのかな。

はなこさん：“東海道の俤いずこ”という表現が“東海道のおもかげいずこ”に変わっているけど、ここから考えて、『俤』という漢字は『おもかげ』と読むんじゃないかしら。

たろうさん：そうすると、『赫く』は『えく』と読むということでもいいのかな。

はなこさん：そうだと思うわ。

たろうさん：本当にその読み方であっているか、漢字辞書を使って確認してみよう。

はなこさん：その前に、もうひとつ気になる変化があるの。

たろうさん：どこかな。

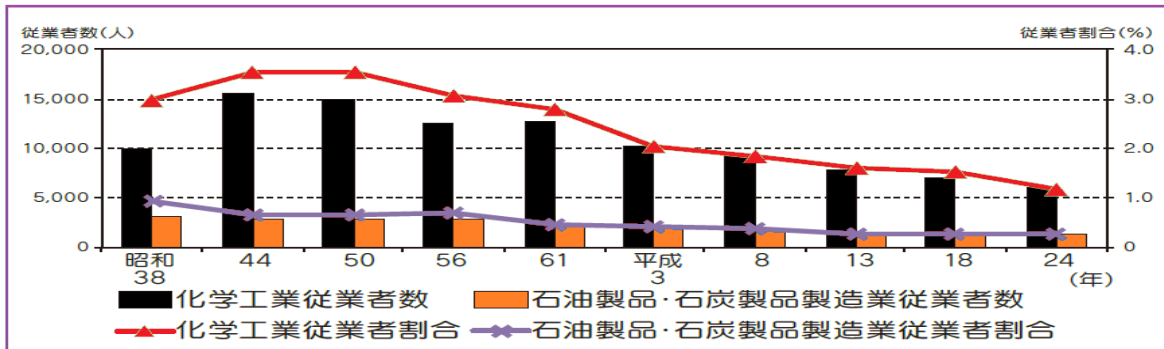
はなこさん：難しい漢字を簡単にしたり、ひらがなにしたりして、今の人にも分かりやすい歌詞に変えようとしたことは想像がたったのだけど、“化学に樹つ栄光”を“科学に樹つ栄光”と変えた理由は何かしら。どちらも難しくない、習ったことのある漢字よ。

たろうさん：③“かがく”の漢字を置きかえた理由は何だろう。

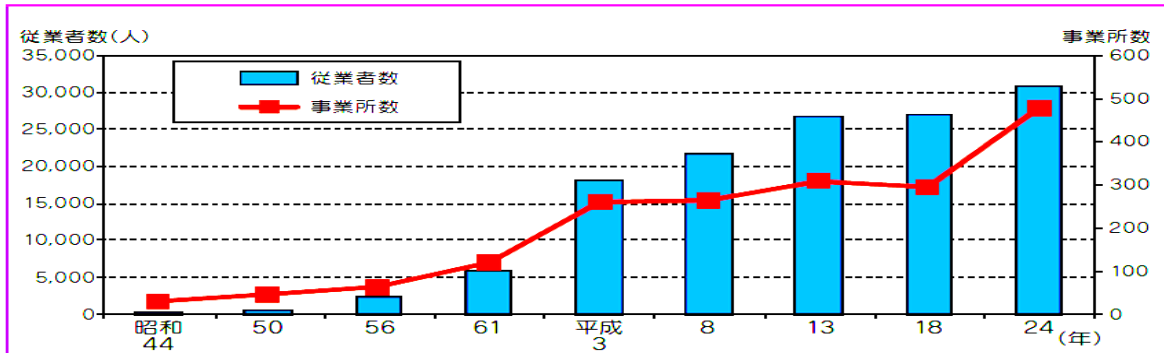
はなこさん：“かがくに樹つ栄光”という表現に、川崎市の特徴があるはずよね。

たろうさん：あとで川崎市について調べてみよう。

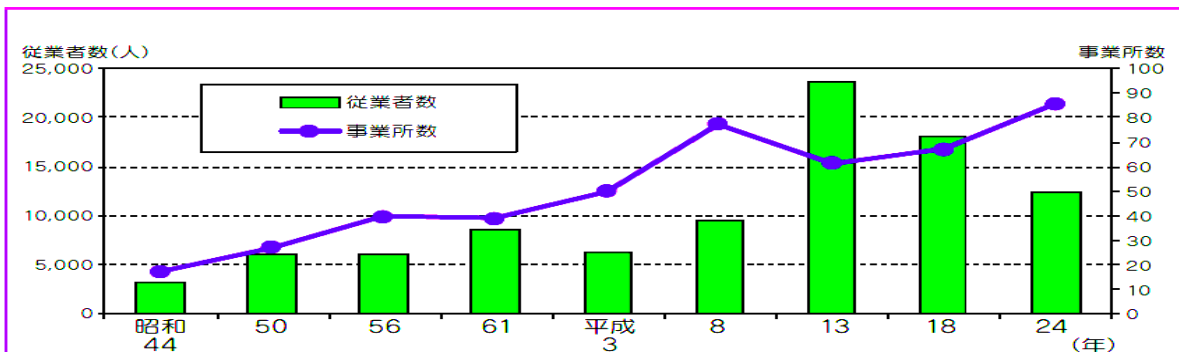
〔資料4〕「化学工業」「石油製品・石炭製品製造業」従業者数および割合のうつり変わり



〔資料5〕「情報サービス業」従業者数および事業所数のうつり変わり



〔資料6〕「学術・開発研究機関」従業者数および事業所数のうつり変わり



（『川崎市90年間の変遷』より作成）

たろうさん：歌詞の変化では“響き渡るサイレン”^{ひび}のところも変わっているよ。

はなこさん：平成16年になるとその部分が“希望満つる朝風”に変わっているのね。

たろうさん：④“響き渡るサイレン”ってどんなものなのだろう。

はなこさん：何のサイレンだったのか、気になるわよね。

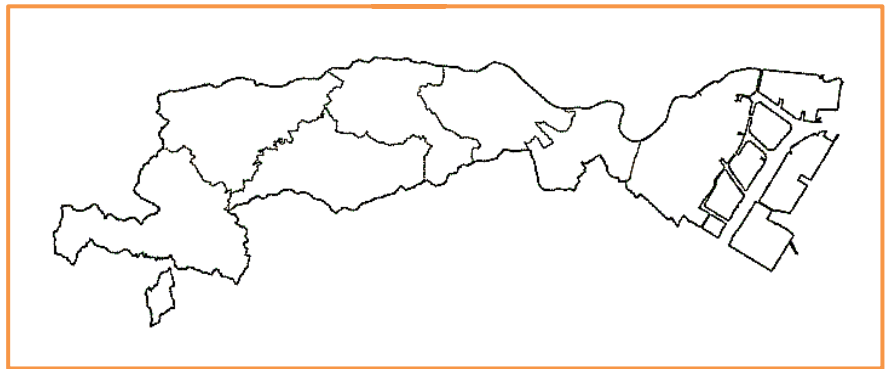
たろうさん：変わったところもたくさんあるけど、歌詞の中には変わっていないところもたくさんあるんだよね。富士山や多摩川など、地形に関する歌詞の変化はないよ。

はなこさん：地形の話だと、“左右に展ぶる大都の翼”^{つばさ}という部分もすべての時代に共通する歌詞になっているわね。

たろうさん：川崎って左右にのびる地形というイメージなんだね。

はなこさん：地図帳で調べてみたら、確かに【資料7】のような形になっているわよ。

【資料7】 関東地方の地図と川崎市の地図



たろうさん：ぼくたちが大人になるころにも歌詞が変わることがあるのかな。

はなこさん：私たちが大人になるころには、どんな歌詞になるのかしら。

- (1) 下線部①の ～ に当てはまる数字と記号を、【資料1】に書かれた情報をもとにして答えましょう。なお、 と には数字が、 には＋、－、×、÷のいずれかの記号が入ります。
- (2) 下線部②のように、川崎市歌が昭和44年に変化した理由について、【資料2】～【資料3】に書かれた情報をもとにして書きましょう。
- (3) 会話中の にあてはまる言葉をひらがなで答えましょう。
- (4) 下線部③について、たろうさんとはなさんが川崎市について調べてみたところ、川崎市の産業についてのグラフ【資料4】～【資料6】が見つかりました。川崎市歌の歌詞の中で“かがく”にあてられた漢字が変えられた理由として考えられることについて、【資料4】～【資料6】を比べ、読み取った情報をもとにして書きましょう。
- (5) 下線部④のサイレンとは、川崎市歌の歌詞から考えてどのような理由で鳴らされたサイレンであると考えられますか。考えられるものを、下のア～オの中から1つ選び、記号で答えましょう。
- ア 光化学スモッグ注意報のサイレン。
 - イ 津波警報・注意報のサイレン。
 - ウ 消防車や救急車などが鳴らすサイレン。
 - エ 工場の始業時間を告げるサイレン。
 - オ 正午を告げるサイレン。
- (6) 【資料7】の川崎市の拡大図には、地図を読むときに必要な方位の情報が足りません。この地図の北の方位としてふさわしいものを、下のア～クの中から1つ選び、記号で答えましょう。

